



開校 21 年目

令和 6 年度 よく学び 心ゆたかに やりぬく子

# 新 座 小 だ よ り

## 1 月 号



〒352-0006 埼玉県新座市新座 3-4-1  
TEL 048-478-2760 FAX 048-482-6791  
<http://www.c-niiza.ed.jp/e-niiza>

令和 7 年 1 月 8 日  
児童数：289 名  
校長 浜田 祐加

新年あけましておめでとうございます。子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様にとって、幸多き 1 年になりますよう心からお祈り申し上げます。

さて 2025 年は巳年。十干十二支でいうところの「乙巳（きのとみ）」となります。「乙」は植物が成長し広がっていく様を表し、「巳」は成長することが極限まで達したことを表すと言われています。このことから、

「乙巳」の年は「再生と変化の年」「芽吹きが成熟し、転機を迎える年」と言われているようです。歴史的に見ると、大化の改新や壇ノ浦の戦いが起こったのもこの乙巳の年でした。

子どもたちには、この 2025 年が、一人ひとりの努力が実を結び、新しい階段をのぼる「飛躍の年」になってくれると良いなと思っています。



わたしがたねをまかなければ

谷川 俊太郎

わたしがたねをまかなければ

はなは ひらかない

ぼくがあしを ふみだすとき

みちはかぎりない

じぶんで かんがえ

じぶんで はじめる

幸小のわたしたち

わたしがあすを あきらめたら

あさは もうこない

ぼくがほしを みつめるとき

そらは かぎりない

あせらず こつこつ

ねばってやりぬく

幸小のわたしたち

ひとりが うたを うたいだすと

こえは こだます

ひとりひとり てをつないで

ゆめは かぎりない

みんなで なかよく

ちからを あわせる

幸小のわたしたち

(出典：谷川俊太郎詩集「すき」 理論社発行)

始業式に子どもたちに右の詩を紹介しました。「幸小」を「新座小」に変えても同じことが言えると思いい年のはじめに子どもたちに話をしました。

本校は、自ら考え行動できる児童を育てるために授業改革を進めています。一斉に行う授業を精選し、自ら課題をもち、それらを様々なリソースを用いて解決する学習を進めているところです。昨年度からは、個々に学んだことを、自身のより深い学びや学習の定着をねらい「out put」という形をとるようにもしています。

「じぶんでかんがえ じぶんで はじめる」ことが「あたりまえ」と捉えられることは、新たな時代を生き抜くための土台になると考えています。

しがらみが多く、また国際化の波の中で多様な価値観の受け入れが求められる昨今、子どもたちには物事を柔軟に考え、様々な困難を自らの力で乗り切る経験をさせていく必要があります。本校で取り組んでいる授業改革は、「社会の縮図」ともいわれる公立校だからこその大きな意味をなす部分があり、教職員一丸となって進めているところです。

「あせらず こつこつ」「ちからを あわせる」等、新しい時代を生き抜くヒントがちりばめられているこの詩のように、本校の子どもたちには、ピンチをチャンスに変え、多くの種をまき、花開かせていける人になって欲しいと思います。

